

りのまち通信

活動編
第1号

令和3年2月8日
都市計画課 発行

(※)「リノベーションまちづくり」の概要については、「導入編」第1号、第2号をご覧ください。

持続可能なまちづくりの方針として、今年3月に公表する「立地適正化計画」のスタートアップ施策として取り組んでいる「リノベーションまちづくり(※)」「について皆さまにお伝えする「りのまち通信」の「活動編」第1号です。

今回は、令和2年11月6日に市民情報センターで開催した「栃木県まちなか元気会議 鹿沼市タウンミーティング(以下、TM)」についてご紹介します。

開催概要

TMは、「リノベーションまちづくり」について講演やまち歩きを通して知り、参加者がこれからの鹿沼の新しい日常や未来について考えるきっかけを作ることを目的に開催されました。

講師には、これまで栃木県まちなか元気会議(以下、元気会議)において講師を務めてこられた株式会社ワークヴィジョンズ代表取締役の西村浩氏、及びプロジェクトマネージャーの田村柚香里氏をお招きしました。

参加者は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、定員を50名とし、まち歩きのメイン舞台である銀座通りや末広町通り周辺にお住まいの方やお店をお持ちの方に参加の呼びかけを行いました。



(株)ワークヴィジョンズ
田村 柚香里氏



(株)ワークヴィジョンズ
西村 浩氏

参加者内訳

属性	人数
地元住民・道沿経営者	7名
地域人材 (NPO等各種団体)	6名
建設水道常任委員 (市議会)	6名
県・他市町職員	10名
市関係者	13名
その他	3名

取組紹介

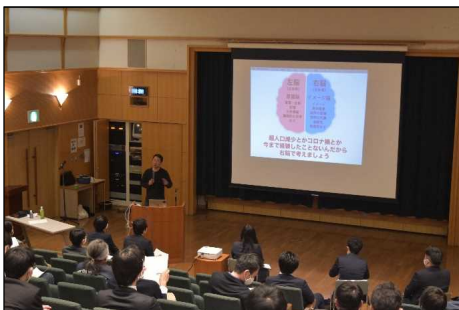
第1部は「取組紹介」として、栃木県県土整備部都市計画課の高田氏から元気会議の事業概要と講師である西村氏の紹介。続いて鹿沼市都市計画課の水永から市プロジェクトチーム(以下、PT)のこれまでの取組み紹介が行われました。

講演会

第2部は「自分が変わればまちが変わるー無理のない日常をつくる当事者のまちづくり」と題し、超人口減少時代のまちづくりについて西村氏がこれまで実践してきたことの紹介を交えながら講演いただきました。

キーワード

人口減少
×
超災害
×
Withコロナ
↓
誰も経験した
ことのない時代
↓
前例がない
↓
妄想が大事
↓
妄想で終わらず、
「当事者」として
実践する



まち歩き

第3部は西村班と田村班の2班に分かれ、銀座通り・末広町通り周辺のまち歩きを行いました。

普段何気なく通り過ぎていたまちも、講演で学んだ「リノベーションまちづくり」の視点で改めて観察すると、「この空き地をあんな使い方したら楽しそう!」、「この建物の壁を使って野外映画鑑賞できるかも?」といった想像・妄想が掻き立てられ、一気に宝の山のように見えてきます。

また、「ベビーカーを押して歩くには歩道の舗装状態が悪い」という参加者それぞれの立場ならではの視点で気づくこともありました。

佐藤市長も参加され、参加者との意見交換に熱心に耳を傾けるなど、意欲的に取り組まれました。

【まち歩きルート図】



クロストーク・意見交換

第4部はプロジェクトマネージャーの田村氏による進行のもと、講師の西村氏、市内に設計事務所を構える建築士の渡邊氏、PTリーダーの水永がクロストークを行いました。会場からも意見・質問があり、活発な議論の場となりました。

まち歩きしたエリア周辺は秘密基地のような雰囲気があり、魅力的だと思った。
【那須烏山市職員】



ターゲットがどんなことを求めているのかを見極めて、事業を展開することが大切だと思う。
【NPO法人レインボー】

多世代が過ごしやすいまちづくりが必要だと思う。
【銀座二丁目自治会長】



鹿沼の高校に通学していたが、銀座通りのような場所を知らなかった。学生たちに愛着を持ってもらう仕組みがあればいいと思う。
【日光市職員】



おわりに

最近のまちづくりは、行政と民間とが協働する「公民連携」によるものが主流となってきました。全国での成功事例も増えてきました。

鹿沼市でも「公民連携」によるまちづくりを進めていくために、これまでまちづくりに取り組んできた方も、そうでない方も「自分のまちは自分でつくる」を合言葉に、まずは鹿沼の新しい未来を妄想することから始めてみませんか。